

暑さに強く、おいしいお米の新品種「恋の予感」

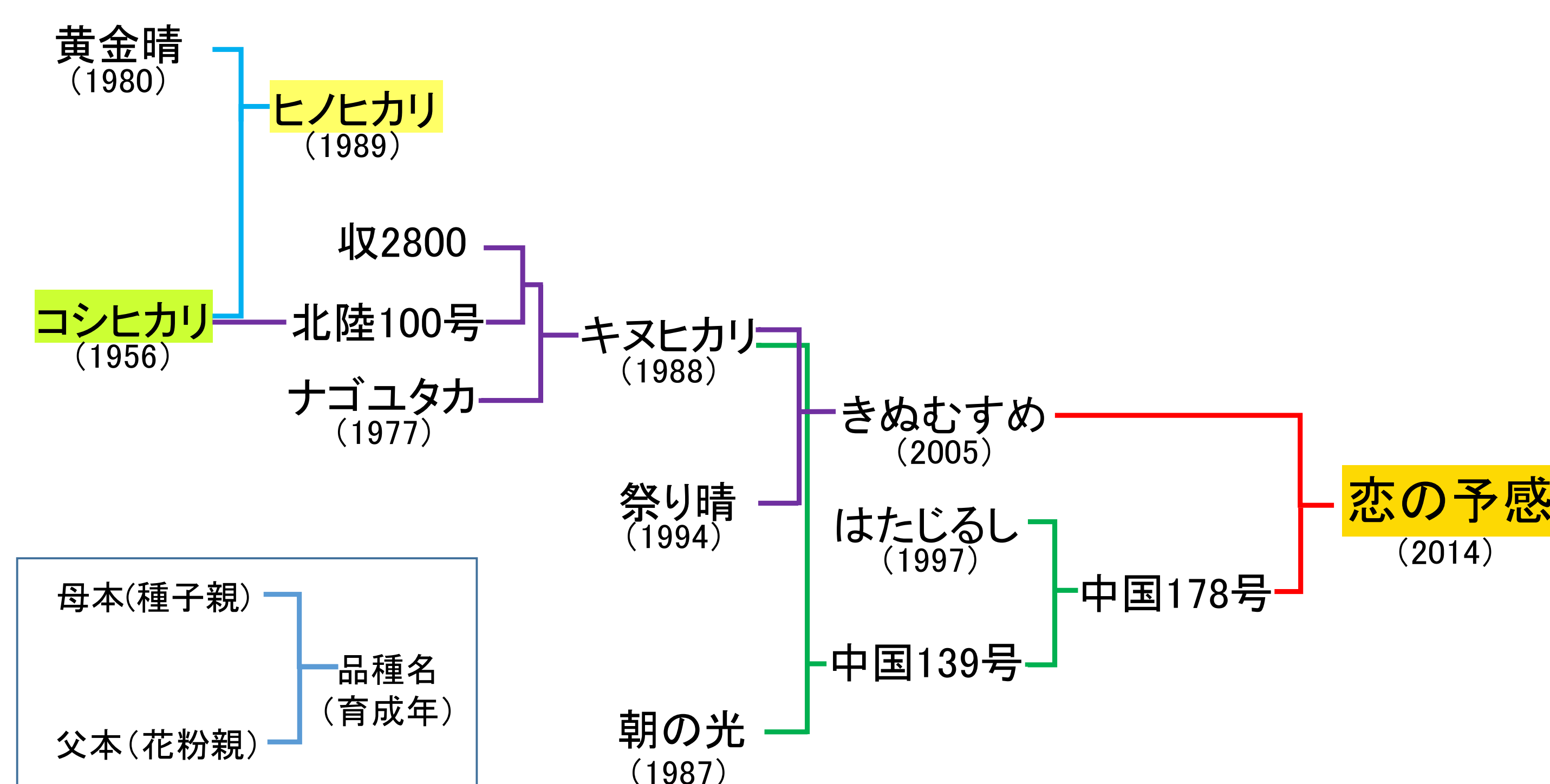
(独)農研機構 近畿中国四国農業研究センター



水稻新品種「恋の予感」は、近年の高温下でも玄米品質が主力品種「ヒノヒカリ」より優れ、収量も「ヒノヒカリ」より多い品種です。米飯食味は「ヒノヒカリ」並に良好です。縞葉枯病に抵抗性で、栽培適地は関東以西の温暖地、暖地です。今年、広島県の奨励品種に採用され、今後のますますの普及が期待されます。

1 「恋の予感」の育成

「恋の予感」は良食味で玄米品質、収量の良好な「きぬむすめ」に食味と玄米品質が良好でいもち病・縞葉枯病に強い「中国178号」を交配して育成しました。2002年に交配を行って育成を開始し、2014年に品種登録出願を行いました。



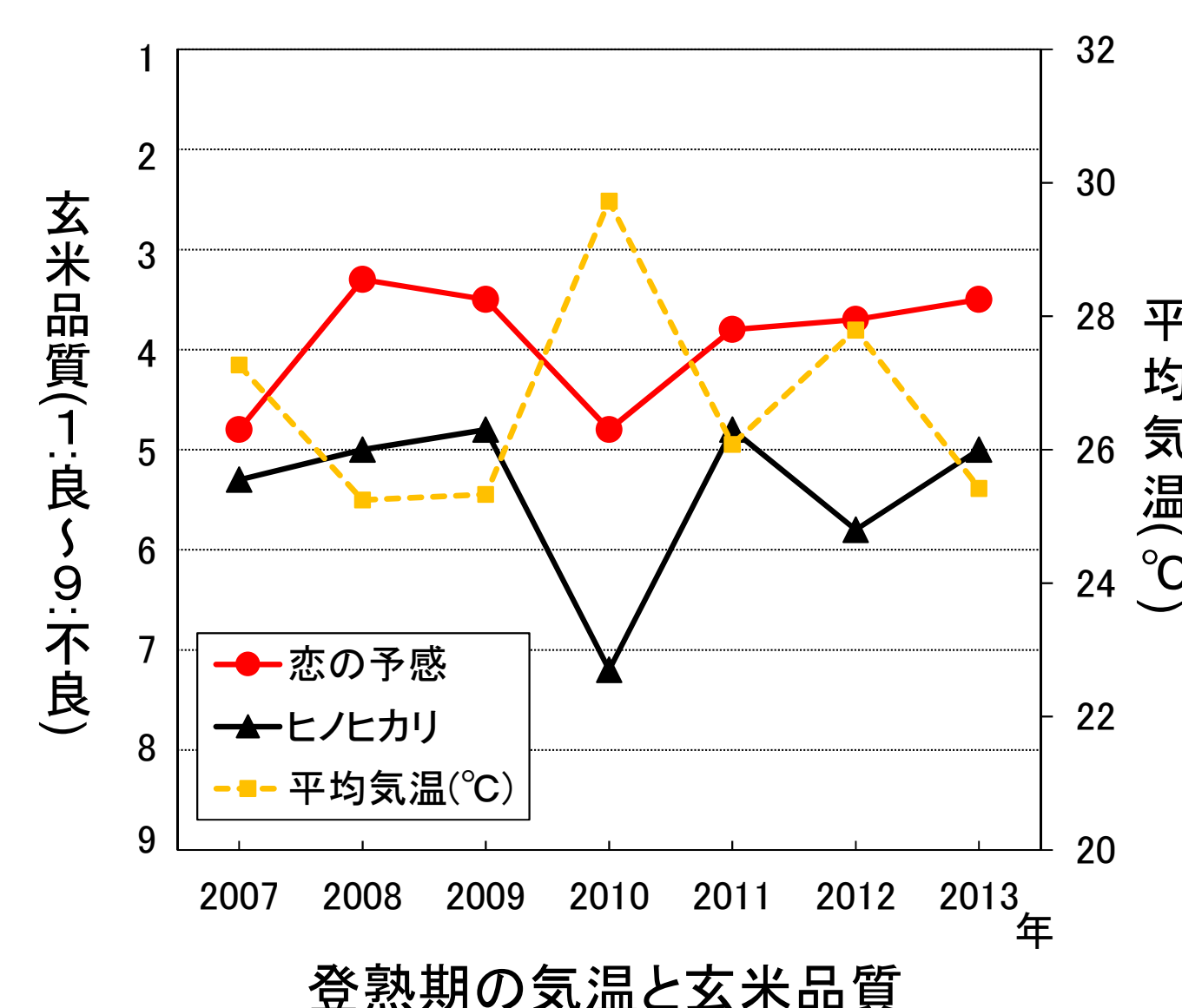
「恋の予感」 「ヒノヒカリ」

「恋の予感」の玄米(2012年)

※高温障害による白濁が見られません。

2 「恋の予感」の主要特性

西日本で広く栽培されている「ヒノヒカリ」と同じ中生品種です。高温下で実っても「ヒノヒカリ」より玄米品質が良好で、収量も多く、食味は「ヒノヒカリ」と同等の高い評価を得ています。稲の重要病害であるいもち病には「ヒノヒカリ」よりも強く、縞葉枯病にも抵抗性です。



収量試験の結果		
品種名	玄米重 (kg/a)	同左比率 (%)
恋の予感	58.7	115
ヒノヒカリ	51.0	(100)
にこまる	57.8	113

(育成地) (2007年-2013年の平均)

食味試験の結果				
品種名	総合 (-3~+3)	外観 (-3~+3)	粘り (-3~+3)	柔らかさ (-3~+3)
恋の予感	1.53	1.09	1.46	1.28
ヒノヒカリ	1.64	1.38	1.48	1.31
にこまる	1.54	1.31	1.54	1.47

(育成地) (2007年-2013年の平均) (基準: 日本晴)

3 名称の由来

ひとたび食すると恋するようときめきや情熱のあるお米となることを願った名前です。この名称は、JA全農ひろしまと協力して一般公募を行い、応募のあった1,800件余りの中から選ばれました。

4 普及計画

2014年には約100haで栽培されました。JA全農ひろしまでは2017年には5300haの作付けを計画しています。気候の温暖化に対応するための耐暑性に優れた品種としての普及が期待されます。